

今週は、19日（火）と20日（水）が「学校公開」だった。中学校の先生方や本校の同窓生、保護者など多くの方に来ていただき、授業や生徒の様子を見ていただいた。19日（火）には、「みんなで築こう男女共同参画」公開授業として、本校の家庭科教員である野崎万里子教諭が2年2組で授業を行った。

今号のタイトルは、そのまま授業のテーマでもある。夫婦が協力して子育てをするにはどうすればよいか考えるのがねらいである。授業は、将来結婚し、親となった自分を想像させることから始まった。高校2年生にとって、自分が親になるのは、そう遠い話ではない。その後、先生が準備した資料のグラフデータなどから家事や育児の現状を知り、課題を見つけていった。ある共働き夫婦の生活の一コマから自分だったらどのような言動をとるか考えさせ、生徒に現実感をもたせる工夫もされていた。

続いてこの授業のメインの活動が始まった。男女ペアになり、共働き夫婦の「家事育児100タスク表」にある「カーテンを開ける」「保護者会に出席する」などのタスクに、夫がやるものは青、妻がやるのは赤で○をつけていくというものである。高校2年生がペアになり、話し合いながら進めることができるのだろうか。授業を参観しながら心配していた。しかし、それは杞憂に終わった。一つ一つのタスクについて二人で相談しながら分担を決めていく姿がそこにはあった。雰囲気がいいのである。和やかに楽しく授業は進んでいった。○をつけ終わり、夫が担当する数、妻が担当する数を数える姿もあった。いい生徒の姿をみせてもらった。

そこには、互いの立場を尊重し、価値観を認め合い、歩み寄りや折り合いをつけながら課題を調整していくことが大事であることに気づかせたい指導者の意図が十分に生かされていた。生徒に課題意識がなければ、あのように活発な活動にはならない。家事や育児の現状を視覚的にとらえさせたり、夫役や妻役になりロールプレイング的な活動を行ったりしたことが生きていた。

生徒は青や赤の○をつけながら、近い将来訪れるであろう自分の生活をイメージしていたに違いない。高校の家庭科ならではの学習内容である。なおかつ男女共同参画社会というテーマに合致している。やはり生徒の実生活に即した学習活動があると、生徒の様子は全く違ってくる。知識伝達型の授業も必要だが、今回のような授業も大切である。本校の先生方に共通していることは、何とか生徒にわかってもらおうと努力している点である。その気持ちが授業に表れている。

今回のような授業が急にできるわけではない。野崎先生は、普段から生徒が少しでも理解できるようにと資料を豊富に準備し、視覚的な効果を取り入れながら授業を進めている。何よりも彼女には人一倍の熱心さがある。よく生徒のためにというのが、彼女は、常に生徒のために100%のエネルギーを費やしている。手厚い指導がモットーの梁川高校にあって、その先導的な役割を果たしている教員の一人である。彼女の溢れる梁川愛には、二度目の梁川高校勤務ということも関係しているだろう。現在の生徒の兄や姉を担任したりしている。

野崎先生には野崎先生の持ち味がある。他の先生方にも一人一人持ち味がある。生徒はタイプの違った先生方と接することで、多くのことを吸収し、学んでいく。そういう意味では、梁川高校の先生方は、生徒思いのタレント集団である。